5. 環境目標と実績

主要な環境活動について目標値を定め、環境負荷の継続的な低減に努めています。

		语 · 日	出 /		実 績		2015年度	
		項目	単位	2013年度	2014年度	2015年度	目標値	
	販売電力量あたりのCO ₂ 排出量 (調整後)*3 []は実排出係数 CO ₂ 排出量 (調整後)*3 []は実排出量 販売電力量		kg-CO ₂ /kWh	0.617 [0.613]	0.598 [0.584]	算定中		
			万トン-CO2	5,210 [5,180]	4,860 [4,750]	算定中	_**4	
			億kWh	844	813	792		
	原子力利用率		%	0	0	20.7	_*4	
	再生可能エネルギー (太陽光・風力) 設備導入量 (累計)**5		万kW	315	516	648	_*7	
	送電端火力総合熱効率(高位発熱量ベース) [] は低位発熱量ベース換算値*8		%	39.4 [42.1]	39.5 [42.2]	39.6 [42.3]	_**4	
	送配電口ス率		%	4.8	4.7	4.58	_**4	
	オフィス電力使用量		百万kWh	58	55	54	55以下	
	コピー用紙購入量		トン	438	471	511	470以下	
	上水使用量*10		m³/人	23	25	25	24以下	
	電気自動車導入台数 (累計)**1		台	179	169	167	2020年度末までに 1,000程度	
	一般車両燃料消費率*12		km/ℓ	12.4	12.7	12.7	12.0以上	
	SF ⁶	機器点検時	%	99	99	99	98以上	
	回収率	機器撤去時	%	99	99	99	99以上	
	機器点検時の規制対象フロン回収実施率		%	100	100	100	100	
	産業廃棄物リサイクル率		%	約100	約100	約100	99以上	
		石炭灰リサイクル率	%	100	100	100	100	
		石炭灰以外リサイクル率	%	97	98	97	98以上	
	産業廃棄物社外埋立処分量		トン	1,704	27	44	_*13	
	古紙リサイクル率		%	100	100	100	100	
	グリーン調達率*14		%	約100	98	99	極力調達*15	
	火力発電電力量あたりのSOx排出量 ^{*16}		g/kWh	0.37	0.36	0.29	極力抑制*17	
	火力発電電力量あたりのNOx排出量 ^{*16}		g/kWh	0.26	0.26	0.24	極力抑制*17	
	原子力発電所周辺公衆の 線量評価値 (1 年あたり)		ミリシーベルト	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	

>>地球環境問題 >>送配電ロス(率) >>産業廃棄物 >>線量評価値 >>CO₂排出クレジット >>上水 >>リサイクル率 >>シーベルト

>>利用率 >>電気自動車 >>石炭灰 >>固定価格買取制度(FIT)

>>再生可能エネルギー >> SF₆(六フッ化硫黄) >>グリーン調達 >>低炭素社会

>>熱効率 >>規制対象フロン >>SOx(硫黄酸化物) >>発熱量 >>循環型社会 >>NOx(窒素酸化物)

カ条電の活用、再生可能工作ルギーの開発・番入、火力発電の更な合高が率化と強可な起射管理及び修炭素社会に資す る省エネ・電(CO) サービスの提供等により、CO,の排出期制に最大限努力していきます。 ② 川内原子力発電所1、2号機が2015年9月、11月にそれぞれ通常運転に復帰したことにより、利用率は20.7%に上昇しました。 ② 2015年度末までに無計で、風力48万kW、法局光600万kW、合計643万kWが増入されています。今後とも、電力の安定供給 を前提として、グループー体となって、再生可能エネルギーの開発・導入に無大限物が増入されています。今後とも、電力の安定供給 を前提しして、グループー体となって、再生可能エネルギーの開発・導入に無大限物が組んでいきます。 ② 川内原子力発電所の再稼働に伴い、熱効率の低い石油火力発電所の稼働率が低下したことなどから、2014年度を若干上 回る39.6%となりました。 ② 調加を音増や発明・エレベーターの開引きなど、徹底した前電・省エネに継続的に取り組んだことにより、目標を 道域しました。 ② 電子文書の活用によるペーパーレス化の推進や、ミスコピーの防止、及び占板の裏面利用の徹底に努めたものの、原子 力発電所の再稼働に向けた影応等により開入量が増加したことから、目標未達となりました。 ② 耐水活動の配能に努めたものの、中水供給電の減少分を上水で賄ったことなどにより上水使用電が増加したことから、 若外電筋を開催未達となりました。 ② 電気自動車の経年化に伴う原毒により、2015年度末までの素計場入台数は167台となりました。収支状況等を簡まえつ つ、中長期的な温暖化が振の観点から、社用車への電気自動車の得入拡大を図っていきます。 ② 車両燃養管理やエコドライブの実施など、運用管理の徹底や低燃養車への計画的な切替えにより、目標を達成しました。 ② 98以上 ② 流検時・撤去時における資産型SF、ガス回収装置の使用徹底等を図り、目標を達成しました。 ② 98以上 ② 流検時・撤去時における法定圧力)までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。 ② 99以上 ② 活成のの機大における法定圧力)までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。 ② 99以上 ② 活版100%リサイクルなど、3Rの着実な実践に努めた結果、一部を施さ目標を達成しました。 ② 99以上 ② 活版100%リサイクルなど、3Rの着実に実践していくことにより、目標速成を図っていきます。 ② 個力調達で、50×0×10×0×21×1・1・100 ② 個力調達で、50×0×1・1・1・100 ② 個力調達に努めた結果、2014年度実績を若可りましたが、東日本大策設的の実備(2010年度:SO×0×0×1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1		評 価*1	2016年度 目標値**2	関連ページ
□ 2015年度末まで、黒汁で、因力48万以、太陽/600万以 合計648万以か問入されています。今後とも、電力の安定供給 を削提として、グループー体となって、再生可能エネルギーの開発・導入に最大限取り組んでいきます。 □ 25 回り、日野産所の再整備に伴い、熱効率の低いて油火力発電所の稼働率が低下したことなどから、2014年度を若干上 □ 25 回り、2015年度また。 □ 26 回り、2015年度また。 □ 27 回り、2015年度また。 □ 27 回り、2015年度また。 □ 27 回り、2015年度末また。 □ 27 回り、2015年度また。 □ 27 回り、2015年度末また。 □ 2015年度末また。 □ 2015年度末度のでいきます。 □ 2015年度末度のでいきます。 □ 2015年度末度のでいきます。 □ 2015年度末度に □ 2015年度末度 □ 2015年度 □ 2015年度末度 □ 2015年度末度 □ 2015年度 □ 20	_	から、震災前(2010年度)と比較すると、CO ₂ 排出量は大幅に増加しています。現在算定中の2015年度のCO ₂ 排出量は、 川内原子力発電所の再稼働に伴い、2014年度実績と比較すると減少する見通しです。今後とも安全を大前提とした原子 力発電の活用、再生可能エネルギーの開発・導入、火力発電の更なる高効率化と適切な維持管理及び低炭素社会に資す	極力抑制※5	11 \$ 12
● を前提として、グループー体となって、再生可能エネルギーの開発・導入に最大限取り組んでいきます。 □ 川内原子力発電所の再稼働に伴い、熱効率の低い石油火力発電所の稼働率が低下したことなどから、2014年度を若干上 □ ** □ ** □ ** □ ** □ ** □ ** □ ** □ *	(😂)	川内原子力発電所1.2号機が2015年9月、11月にそれぞれ通常運転に復帰したことにより、利用率は20.7%に上昇しました。	_*4	
□ 図る396%となりました。 □ 販売電力量の減少に作い、送配電設備に流れる電力量が減少しており、損失量についても昨年度より減少していることから、送	(😂)		_*7	12 5 17
● 配売の力量の減少に伴い、送監電設備に流れる電力量が減少しており、損失量についても昨年度より減少していることから、送空間の適正管理や照明・エレベーターの同引きなど、徹底した節電・省エネに継続的に取り組んだことにより、目標を達成しました。 空間の適正管理や照明・エレベーターの同引きなど、徹底した節電・省エネに継続的に取り組んだことにより、目標を達成しました。 本大量の活用によるベーバーレス化の推進や、ミスコピーの防止、及び古紙の裏面利用の徹底に努めたものの、原子力・発電所の再稼働に向けた対応等により購入量が増加したことから、目標未達となりました。 第水活動の徹底に努めたもの、中水供給量の減少分を上水で賄ったことなどにより上水使用量が増加したことから、24以下 24以下 電気自動車の経年化に伴う廃車により、2015年度末までの累計導入台数は167台となりました。収支状況等を踏まえつつ、中長期的な温暖化対策の観点から、社用車への電気自動車の導入拡大を図っていきます。 車両燃費管理やエコドライブの実施など、運用管理の徹底や低燃費車への計画的な切替えにより、目標を達成しました。 98以上 99以上 法令基準レベル(撤去時における法定圧力)までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。 99以上 2000年度末までに1,000程度 12.0以上 99以上 2000年度末までに1,000程度 12.0以上 2000年度末までに1,000程度 12.0以上 2000年度 12.	((())		_**4	18
 達成しました。 達成しました。 電子文書の活用によるペーパーレス化の推進や、ミスコピーの防止、及び古紙の裏面利用の徹底に努めたものの、原子 力発電所の再稼働に向けた対応等により購入量が増加したことから、目標未達となりました。 節水活動の徹底に努めたものの、中水供給量の減少分を上水で賄ったことなどにより上水使用量が増加したことから、若干の目標未達となりました。 電気自動車の経年化に伴う廃車により、2015年度末までの累計導入台数は167台となりました。収支状況等を踏まえつ つ、中長期的な温暖化対策の観点から、社用車への電気自動車の導入拡大を図っていきます。 車両燃費管理やエコドライブの実施など、運用管理の徹底や低燃費車への計画的な切替えにより、目標を達成しました。 自機時・撤去時における真空型SF。ガス回収装置の使用徹底等を図り、目標を達成しました。 会と基準レベル(撤去時における真空型SF。ガス回収装置の使用徹底等を図り、目標を達成しました。 会産業等を図り、目標を達成しました。 毎別以上 ごの炭灰の特性を活かしたセメント原料や、コンクリート混和材等への石炭灰の100%有効活用に加え、全社共同回収による産業廃棄物の確実な回収・リサイクルなど、3Rの着実な実践に努めた結果、一部を除き目標を達成しました。今後とも、循環型社会の形成に向け、3Rを着実に実践していくことにより、目標達成を図っていきます。 古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。 「100 協力調達に努めた結果、2014年度実績を若干上回りました。 「加内原子力発電所の再稼働などにより、石油火力発電所の発電電力量が減少したことから、SOX・NOXともに2014年度実績を下回りましたが、東日本大震災前の実績(2010年度:SOX 0.27 NOX 0.21)と比べると、いずれも高めの便力抑制⁸¹⁷ 度実績を下回りましたが、東日本大震災前の実績(2010年度:SOX 0.27 NOX 0.21)と比べると、いずれも高めの優力抑制⁸¹⁷ を図っていきます。 (金) 川内原子力発電所の再稼働などにより、石油火力発電所の発電で力量が減少したことから、SOX・NOXともに2014年度実績を下回りましたが、東日本大震災前の実績(2010年度:SOX 0.27 NOX 0.21)と比べると、いずれも高めの優力抑制⁸¹⁷ を図っていきます。 	(😃)		_*4	
一 力発電所の再稼働に向けた対応等により購入量が増加したことから、目標未達となりました。	8		54以下**9	20
世 若干の目標未達となりました。	<u></u>		470以下	- 21
② 電気自動車の経年化に伴う廃車により、2015年度末までの累計導入台数は167台となりました。収支状況等を踏まえつつ、中長期的な温暖化対策の観点から、社用車への電気自動車の導入拡大を図っていきます。			24以下	
 ☆ 点検時・撤去時における真空型SF。ガス回収装置の使用徹底等を図り、目標を達成しました。 ☆ 法令基準レベル(撤去時における法定圧力)までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。 ☆ 石炭灰の特性を活かしたセメント原料や、コンクリート混和材等への石炭灰の100%有効活用に加え、全社共同回収による産業廃棄物の確実な回収・リサイクルなど、3Rの着実な実践に努めた結果、一部を除き目標を達成しました。今後とも、循環型社会の形成に向け、3Rを着実に実践していくことにより、目標達成を図っていきます。 ☆ 古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。 (※) 極力調達に努めた結果、2014年度実績を若干上回りました。 (※) 個力別書に努めた結果、2014年度実績を若干上回りました。 (※) 加内原子力発電所の再稼働などにより、石油火力発電所の発電電力量が減少したことから、SO×・NO×ともに2014年度実績を下回りましたが、東日本大震災前の実績(2010年度:SO× 0.27 NO× 0.21)と比べると、いずれも高めの値となっています。今後とも、地域との環境保全協定の遵守を前提に、熱効率の維持・向上に努めることで、排出量の低減極力抑制^{®17}を図っていきます。 	(<u></u>			
□ 点検時・撤去時における真空型SF。ガス回収装置の使用徹底等を図り、目標を達成しました。 99以上 □ 法令基準レベル(撤去時における法定圧力)までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。 100 99以上 □ 石炭灰の特性を活かしたセメント原料や、コンクリート混和材等への石炭灰の100%有効活用に加え、全社共同回収による産業廃棄物の確実な回収・リサイクルなど、3Rの着実な実践に努めた結果、一部を除き目標を達成しました。今後とも、循環型社会の形成に向け、3Rを着実に実践していくことにより、目標達成を図っていきます。 □ 古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。 □ 極力調達に努めた結果、2014年度実績を若干上回りました。 □ 加内原子力発電所の再稼働などにより、石油火力発電所の発電電力量が減少したことから、SOx・NOxともに2014年度実績を下回りましたが、東日本大震災前の実績(2010年度:SOx 0.27 NOx 0.21)と比べると、いずれも高めの値となっています。今後とも、地域との環境保全協定の遵守を前提に、熱効率の維持・向上に努めることで、排出量の低減極力抑制 ● 17	8	車両燃費管理やエコドライブの実施など、運用管理の徹底や低燃費車への計画的な切替えにより、目標を達成しました。	12.0以上	
 ☆ 法令基準レベル(撤去時における法定圧力)までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。 ☆ 法令基準レベル(撤去時における法定圧力)までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。 毎 日炭灰の特性を活かしたセメント原料や、コンクリート混和材等への石炭灰の100%有効活用に加え、全社共同回収による産業廃棄物の確実な回収・リサイクルなど、3Rの着実な実践に努めた結果、一部を除き目標を達成しました。今後とも、循環型社会の形成に向け、3Rを着実に実践していくことにより、目標達成を図っていきます。 ★ 古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。 ★ 古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。 ★ 極力調達に努めた結果、2014年度実績を若干上回りました。 ★ 極力調達に努めた結果、2014年度実績を若干上回りました。 ★ 位とから、SOX・NOXともに2014年度実績を下回りましたが、東日本大震災前の実績(2010年度:SOX 0.27 NOX 0.21)と比べると、いずれも高めの値となっています。今後とも、地域との環境保全協定の遵守を前提に、熱効率の維持・向上に努めることで、排出量の低減を図っていきます。 				
□ 石炭灰の特性を活かしたセメント原料や、コンクリート混和材等への石炭灰の100%有効活用に加え、全社共同回収による産業廃棄物の確実な回収・リサイクルなど、3Rの着実な実践に努めた結果、一部を除き目標を達成しました。今後とも、循環型社会の形成に向け、3Rを着実に実践していくことにより、目標達成を図っていきます。 □ 古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。 □ 古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。 □ 極力調達に努めた結果、2014年度実績を若干上回りました。 □ 川内原子力発電所の再稼働などにより、石油火力発電所の発電電力量が減少したことから、SOx・NOxともに2014年度実績を下回りましたが、東日本大震災前の実績(2010年度:SOx 0.27 NOx 0.21)と比べると、いずれも高めの値となっていきます。 □ 「関内原子力発電が、東日本大震災前の実績(2010年度:SOx 0.27 NOx 0.21)と比べると、いずれも高めの値となっていきます。 □ 「本力抑制率17 極力抑制率17 極力抑制率17 極力抑制率17 極力抑制率17 極力抑制率17 極力抑制率17 極力抑制率17		点快時・撤去時にありる具全望SF6月人凹収表直の使用徹底寺を図り、日信を達成しました。	99以上	11
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□		法令基準レベル(撤去時における法定圧力)までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。	100	
る産業廃棄物の確実な回収・リサイクルなど、3Rの着実な実践に努めた結果、一部を除き目標を達成しました。今後とも、循環型社会の形成に向け、3Rを着実に実践していくことにより、目標達成を図っていきます。 □ 古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。 □ 古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。 □ 極力調達に努めた結果、2014年度実績を若干上回りました。 □ 加内原子力発電所の再稼働などにより、石油火力発電所の発電電力量が減少したことから、SOx・NOxともに2014年度実績を下回りましたが、東日本大震災前の実績(2010年度:SOx 0.27 NOx 0.21)と比べると、いずれも高めの値となっています。今後とも、地域との環境保全協定の遵守を前提に、熱効率の維持・向上に努めることで、排出量の低減極力抑制**17			99以上	23 5 24
 循環型社会の形成に向け、3Rを着実に実践していくことにより、目標達成を図っていきます。 当額 当額 「本13 「本13 「本13 「本14 「本15 「本16 「本17 「本17 「本18 「本19 「本19	8		100	
古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。 100 (金) 極力調達に努めた結果、2014年度実績を若干上回りました。 (本) 加内原子力発電所の再稼働などにより、石油火力発電所の発電電力量が減少したことから、SOx・NOxともに2014年度実績を下回りましたが、東日本大震災前の実績(2010年度:SOx 0.27 NOx 0.21)と比べると、いずれも高めの値となっています。今後とも、地域との環境保全協定の遵守を前提に、熱効率の維持・向上に努めることで、排出量の低減極力抑制**17	<u></u>		98以上	
(金) 極力調達に努めた結果、2014年度実績を若干上回りました。 極力調達**15 極力調達**15 極力調達**15	(⊜)		_*13	
(〇) 川内原子力発電所の再稼働などにより、石油火力発電所の発電電力量が減少したことから、SOx・NOxともに2014年 を実績を下回りましたが、東日本大震災前の実績(2010年度:SOx 0.27 NOx 0.21)と比べると、いずれも高めの値となっています。今後とも、地域との環境保全協定の遵守を前提に、熱効率の維持・向上に努めることで、排出量の低減を図っていきます。		古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。	100	
度実績を下回りましたが、東日本大震災前の実績(2010年度:SOx 0.27 NOx 0.21)と比べると、いずれも高めの値となっています。今後とも、地域との環境保全協定の遵守を前提に、熱効率の維持・向上に努めることで、排出量の低減を図っていきます。	(😂)	極力調達に努めた結果、2014年度実績を若干上回りました。	極力調達*15	
(金) 値となっています。今後とも、地域との環境保全協定の遵守を前提に、熱効率の維持・向上に努めることで、排出量の低減 極力抑制**17 を図っていきます。	(😂)			
	(😃)	値となっています。今後とも、地域との環境保全協定の遵守を前提に、熱効率の維持・向上に努めることで、排出量の低減	極力抑制*17	27
適止な設備連用や放射性廃棄物の管理により、目標を達成しました。		適正な設備運用や放射性廃棄物の管理により、目標を達成しました。	0.001未満	31

>>>エコドライブ

>>環境保全協定

>>低燃費車

>>放射性廃棄物

>>3R

>>プラグインハイブリッド車

^{※13:} 修繕工事の規模・頻度等により大きく増減するため、目標は設定しない。 ※14: 汎用品 (事務用品、雑貨等) のうち、社会的に認知された基準に適合した製品の購買割合を参考値として記載 ※15: 活動がほぼ定着していること等を踏まえ、定性目標とする。 ※16: 火力 (内燃力除く) 発電所ごとの排出量の合計値。 ※17: 石油火力発電所の利用率により大きく増減するため、定性目標とする。